

女性と子どもの視点 から考える避難計画

～原発事故！そのときあなたは？～

原子力防災とは放射性物質による被ばくを避けて避難することです。
被ばくの影響を受けやすいとされる女性と子どもの視点から、東日本
大震災とその後の原発事故の体験を知り、まさかの事態に備えるため
にどうすればいいのか、人まかせにせず、私たちが考えてみませんか？

日時：2018年1月28日(日) 13:00~16:00

(12:30開場)

会場：ヴィステヒえづ (ヴィステホール)

駐車場あり／西伯郡日吉津村日吉津 930 番地(日吉津村役場となり)／0859-27-0606／地図裏面

(※ 公共交通の場合：米子駅(日光バス「佐摩行き」乗車)→(約20分)→バス停[富吉入口]で下車 歩いて3分)

「東日本大震災と原発事故に被災して」 13:00～

森松明希子さん (東日本大震災避難者の会 Thanks&Dream 代表)

「市民参加による原子力防災」 14:00～

～兵庫県篠山市の安定ヨウ素剤事前配布の取り組み等を通じて～

玉山ともよさん (兵庫県篠山市原子力災害対策検討委員会委員)

トークセッション (会場との意見交換) 15:20～

参加費無料 / 手話あり / 託児あり (1月17日までに申込みお願いします)



主催：原子力防災を考える県民の会 (連絡先(託児の申込みも)：080-6173-1318 山中)

共催：グリーンコープ生協とっとり / えねみら・とっとり (エネルギーの未来を考える会)

後援：鳥取県 / 境港市 / 米子市

朝日新聞鳥取総局 / 山陰中央新報社 / 新日本海新聞社 / 中海テレビ放送 / 毎日新聞鳥取支局

I(アイ)女性会議 / 高齢社会をよくする会ネットワーク in とっとり / 新日本婦人の会 / 部落解放同盟鳥取県連合会女性部 / 鳥取県栄養士会

鳥取県男女共同参画推進会議 / 鳥取県夫婦別姓と女性の地位向上を考える会 / 鳥取県民主商工会 / 鳥取県連合婦人会

この事業は「平成29年度鳥取県トットリズム推進補助金」を受けた企画として行っています。



☆森松明希子さんプロフィール

1973年兵庫県伊丹市生まれ。福島県郡山市在住中に東日本大震災に被災。当時3歳1ヶ月と0歳5ヶ月の2児を連れて1ヶ月の避難所暮らしを経て、2011年5月から大阪市へ母子避難。大阪府の被災者雇用創出制度（通称JOBフェニックス事業）を活用し、大阪市北区社会福祉協議会に臨時派遣職員として就職。現在非常勤職員として勤務。「避難の権利」を求めて大阪地方裁判所に集団訴訟を提起した原発賠償関西訴訟原告団代表。「放射線被爆の恐怖から免れ健康を享受する権利」は避難した人、とどまる人、帰還の選択をした人全てに等しく与えられるべき基本的人権だと主張し、当該裁判を人権救済裁判と位置付け、原子力災害のあらゆる被害に対して恒久的救済を求める。3.11以降、社会がどう変わることができるのかを広く一般の人々に問う活動に奔走している。
東日本大震災避難者の会 Thanks & Dream 代表



☆玉山ともよさんプロフィール

1969年東大阪生まれ、篠山市在住。
事実婚の夫が1994年より有機農業を始める。現在「のり・たま農園」農家主婦。高1、中1、小3の3児の母。2013年総合研究大学院大学文化科学研究科比較文化学専攻、満期退学。米国南西部のウラン鉱山開発と環境正義運動、特に先住民コミュニティへの影響について研究していた。当時子連れフィールドワーカー、2008/2009フルブライター（ニューメキシコ大学人類学部客員研究員）。現、南山大学人類学研究所非常勤研究員。2011年篠山市環境みらい会議エネルギー一部会部会長を経て、2012年篠山市原子力災害対策検討委員会、応急対策専門部会部会長。篠山市で保養キャンプ、同市への避難移住者支援をする。2017年『地方自治のあり方と原子力』七つ森書館に「兵庫県篠山市では市民の取り組みでヨウ素剤を事前配布」を寄稿



<ヴィレステひえづ>



バス停[富吉入口]